

雑感書

松木 繁助教授
(フランス語)

齡不惑を超えて、人生の緩やかな坂を下り初めている。老、病、死は、愛憎の情とともに、避かれぬ人の宿命である。

生涯に一つの齡ありて、夢のものが終るべき。

(Il est un âge dans la vie,
Où chaque rêve doit finir.)

ときには、自己最後のしめた夢を顧みても、ひとの説きを受けはすまい。

私は、かつて稚き日、学齋の窓辺に右の詩句を詠じたことがある。

甘く説きを帶びたフランスの語の音が、小鳥の歌のようだ。桃色の唇からもれたことじあつ。肩や胸に濃い花影を落して、前途には、限りなき時間が横たわり、華やいだ光明が満ち溢れているような気がしていた。萬巻の書は車にある、熟読、再読、永遠に意のままの感があった。詩句の切実な真意が身

邊の条件を自分に甘く勘案して

も、「読後の再会はまず期し難い」としなければならない。嵐の中の狂王リオの姿、ワルトルクの森に映えるアンナ・カレーニナの眞珠色の肩、ほとんどセラフ・イック

までの永遠の女性ベアトリーチ

……一期一会の読書である。

もはや再会は期し得ない読書である。こうした覚悟のうちに生まれた繩の光明にかかるのである。そ

れは「心の飢え」によるもの、

少なくなく、それは、それまで余り気にもとめなかった食い物について、どう

間がたてば腐るはず、固くなるはずのものが、いつまでも大丈夫で、立てるのではなく季節が立っている。だから献ははどちらで立てる。しかし有機農法で作られているからなんとも気持ちいい。どうしても足りない分は近くのスーパーによる。

牛乳は北海道から足立区経由で入ってくる。

食器類から合成樹脂のものが

なくなり、調味料では「味の素」とかの化合物が消失、白糖、合成塩が三温糖天塩になった。みそやつけものは自前でやるようになり、お茶はこれも有機農法の柿茶、ハトムギ茶をしている。合成洗剤は天然のものになつた。つがいの二トリが残りものをつけられてくれ、そのうち有精卵をと期待している。子供にはなんとなくコーラや

私の健康法

宮井 正弥講師 (システム)

玄米を主食にして、一年半になります。家族は妻夫婦ですが、米類を含め野菜は三里塚から運んでもらっています。だから献ははどちらで立てるのではなく季節が立っている。しかし有機農法で作られているからなんとも気持ちはいい。どうしても足りない分は近くのスーパーによる。

牛乳は北海道から足立区経由

で入ってくる。

食器類から合成樹脂のものが

なくなり、調味料では「味の素」

とかの化合物が消失、白糖、

合成塩が三温糖天塩になつた。

みそやつけものは自前でやるよ

うにし、お茶はこれも有機農法

の柿茶、ハトムギ茶をしている。

合成洗剤は天然のものになつた。

つがいの二トリが残りもの

をつけられてくれ、そのうち有

精卵をと期待している。

子供にはなんとなくコーラや

も最近おかしい、そんなものがあ

るはずのない季節にスーパーに山

と盛られている。しかも以前は泥

で私も野菜を主にし肉を少しつ

对し、ヨガは身体でするという

明である。

しかし、基礎的知識やわざかも

して、国漢や專政のフランス語文

は生じるから誰もが読書をする。

しかし、「欲求」は誰にもあると

量してみて、少年の日の夢をた

だ一度だけなら、まだ現実し得る

練と残る若きの影を認めて、独

在するのを悟った。壊破しようと決意した書物、そのなかには

だ一度だけなら、まだ現実し得る

練と残る若きの影を認めて、独

在するのを悟った。壊破ようと

決意した書物、そのなかには

だ一度だけなら、まだ現実し得る

練と残る若きの影を認めて、独

</div